

講義コード	21H2155801	授業形態	講義	事前登録の有無	なし	担当者氏名	貝沼 恵美	開講期	1期
科目名	地域研究 1				貝沼 恵美			1期	
履修前提条件									
授業の目的	東南アジアの島嶼国家フィリピン共和国（以下フィリピン）は、16世紀から第二次世界大戦終了までの約380年にわたりスペインや米国などの宗主国の支配下に置かれていた。戦後に独立を果たしたものの、植民地支配下にあった時代の影響は、現代でも地域景観や人々の生活など、あらゆる場面で見る事ができる。この授業ではフィリピンに焦点をあて、社会経済的背景、自然環境など様々な側面から同国が置かれている状況や内包する諸問題を理解する。さらに、本授業において用いるフィリピンの事例から、様々な角度から地域をとらえることの意義を考える。また本授業においては、経済地理学的観点に立脚して地域を理解する手法を修得する。								
到達目標	フィリピンについての理解を深めると同時に、グローバル化の進展と経済成長が開発途上国社会に及ぼす影響について考察できるようにする。また、多角的な地域観察と分析から地域をとらえる手法を会得し、それを自身の研究に活かせるようになる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	フィリピンを含む東南アジアに関連する時事問題に関心をもつこと。なお、上記に示した授業以外の学修は60時間以上を目安に行うこと。								
授業計画	【第1回】イントロダクション 【第2回】地域研究とは何か 【第3回】アジアの中のフィリピン - アジア諸国の中での相対的位置づけ - 【第4回】フィリピンの概要(1) - フィリピンという国のアウトラインの確認 【第5回】フィリピンの概要(2) - フィリピンという国のアウトラインの確認 【第6回】フィリピン環境と災害(1) - 賦与の条件としての自然環境との共生 - 【第7回】フィリピンの環境と災害(2) - 賦与の条件としての自然環境との共生 - 【第8回】フィリピンの教育と言語政策(1) - 植民地における教育政策と現代の多言語教育 - 【第9回】フィリピンの教育と言語政策(2) - 植民地における教育政策と現代の多言語教育 - 【第10回】フィリピンの文化と海外就労(1) - 労働力輸出大国が抱える困難性 - 【第11回】フィリピンの文化と海外就労(2) - 労働力輸出大国が抱える困難性 - 【第12回】フィリピンの工業立地と公共投資 - 政府の本音と建て前と葛藤と - 【第13回】フィリピンにおける先住民族 - 近代化とグローバル化が及ぼした影響 - 【第14回】フィリピンの都市・地方・農村 - それぞれの地域特性；隣の芝は青いのか - 【第15回】総括 - 地域を多角的にとらえるということ -								
成績評価の方法	毎回のリアクションペーパー（60％）、期末試験（40％）で評価する。								
フィードバックの内容	授業内の課題や質問に関する説明を、適宜行う。								
授業実施形態について	対面授業で行うが、状況次第で計画変更の可能性もあり。その場合はオンライン授業を実施する。								
教科書									
書籍名	著者	出版者	出版年	ISBN/ISSN					
指定図書									
書籍名	著者	出版者	出版年	ISBN/ISSN					
参考書									
書籍名	著者	出版者	出版年	ISBN/ISSN					
『変動するフィリピン - 経済開発と国土空間』	貝沼恵美・小田宏信・森島 濟著	二宮書店	2009	978-4-8176-0331-9					
『世界地誌シリーズ 東南アジア・オセアニア』	菊地俊夫・小田宏信編	朝倉書店	2014	978-4-254-16927-0					
『地理を学ぼう 海外エクスカージョン』	島津 弘・伊藤 徹哉・立正大学地理学	朝倉書店	2019	978-4-254-16359-9					
『スペインはなぜフィリピンを占領したのか？』	梅原弘光著	書籍工房早山	2023	978-4-904701-62-1					
教員からのお知らせ	地図を参照し、その場所で講義内容の事象が生じる理由を考えながら授業に参加してください。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます								
アクティブ・ラーニングの内容	一部で反転授業を実施。グループディスカッションも導入予定。								
その他									